一般質問

山田議員

その他の質問
・深刻な生産者米価の暴落について
・勝山市が再生可能エネルギー発電に取り組むことについて　ほか

勝山市の観光戦略について

Q 質問

市街地誘客のために多額の資金とマンパワーを注ぎ込むのは限界であり、観光戦略の大転換が必要である。勝山に来た観光客が中部縦貫道の大野ICを利用すれば、勝山・大野間に大きな流れができ勝山の商業エリアが広がり地元消費も増える。勝山の利益だけを考えるのでなく、勝山市が立地条件を生かして他自治体の観光宣伝を応援するなど、勝山市の負担を軽くしつつ相互互恵で観光客の流れをつくることに重点を切りかえるべきと考えるが、市の見解を伺う。

A 答弁

恐竜博物館前で案内を求めてくる観光客のニーズは多岐にわたり、勝山・大野の奥越の観光地だけでなく、永平寺や芦原温泉、さらには小浜市など嶺南地方に関するものもある。本年は、これまでの組織的な広域観光に加えて、あわら市及び小浜市との間で、それぞれ新たな観光連携を検討している。このような周辺自治体との相互互恵については、福井県も推進しており、今後は新たな自治体との連携の枠組みも視野に入れながら勝山市としても積極的に進めていく考えである。

消費税8%増税の影響と10%増税について

Q 質問

株価上昇で大企業や大資産家は利益を得たが、庶民は円安でガソリンが高騰し消費税の負担が増え実質賃金も年金も減り生活を直撃している。アベノミクスは完全に失敗し消費不況を招いた可能性が高い。

政府に消費税10%への増税を中止するように求めるべきと考えるが市の見解を伺う。

A 答弁

消費税率の引き上げによる増収分の使途については年金、医療、介護、少子化対策の、いわゆる社会保障4経費に充てるものとされ、社会保障の充実・安定化と、そのための安定財源確保を目的とする待ったなしの財源でもある。増税に対する慎重な議論を重ねるとともに、財政再建もまた経済対策を支える屋台骨であることを認識していく必要がある。

国道157号（勝山ニューホテル前）

下道議員

その他の質問
・「認知症」の理解度を深める徘徊模擬訓練について
・中学校の職場体験の事前学習について
・勝山市の観光を経済活性化につなげる取り組みについて

婚活支援の専門課・増設について

Q 質問

結婚していない独身男女が多い昨今、専門課を増設し、相談員も現在の10名から増やし、婚活にもっと力を入れる時期ではないか。

富山県南砺市では平成26年4月に「南砺で暮らしません課」と言う課を増設。そして「婚活応援団なんとおせっ会」という会の相談員（会員116名）が、集団お見合いイベントの企画や、お見合い交渉をこつこつ行って結婚をまとめている。

A 答弁

現在、結婚相談事業が主業務の担当職員を配置しており、若者世代の定住促進そして子育てしやすい環境を図るために市役所全体で施策を実行している。新たな課を設置するより、各課連携を取りながら、今後も婚活への支援をしていくことが重要であると考えている。

足こぎ車いすの導入について

Q 質問

「足こぎ車いす」とは、従来の車椅子の足元に自転車のようなペダルがついており、片足で軽く踏み込むだけで車体が動き、操作も片方の手だけで出来る最先端の介護機器。障害のある足を積極的に動かすことで、機能の回復も期待できるリハビリ機器ともいえる。もう歩けないと思いこんでいる方にもう1度希望を与える「足こぎ車いす」を市で導入してはどうか。

A 答弁

介護保険制度において車いすのレンタルは、1割負担で利用できるようになっており、「足こぎ車いす」についても、介護保険制度のレンタル対象となっている。購入すれば20～30万円にもなり、メンテナンスの費用も別途必要だが、介護保険制度のレンタルを活用すれば、メンテナンスも込みで1ヶ月1、500円程度となる。

市としては高齢者の集まる場などで福祉用具業者と連携して「足こぎ車いす」の紹介などできる機会を設定できないか検討していく。

足こぎ車いす